

# 中国古代鎮墓像研究

ちょう せい  
張 成

死者を埋葬した墓室の入口に魔除けの鎮墓像を副葬する習俗は、春秋戦国時代にはじまり、漢・三国・魏晋南北朝を経て、隋唐に至る長期間にわたって、中国南北に及ぶ広域に拡散し、流行した。その生成・発展・終焉は、王朝の交替、民族移動、対外交流などと密接な関係が考えられる。鎮墓像の消長は、まさに中国文化史の縮図といっても過言ではない。

鎮墓像は発見以来、美術史学・文献史学においては、鎮墓像の用途・機能の解説に力が注がれてきた。しかし、文献史料が皆無に等しく、史料からのアプローチには限界があった。また、考古学界においても、鎮墓像を年代決定の参考資料としては重視してきたものの、主対象として検討したものは少なく、個別事例の検討に留まっている。資料集成さえ不十分で、体系的な編年が構築されていないのが現状である。それゆえ、本論では、鎮墓像資料を悉皆的に集成し、考古学的手法を用いて鎮墓像の編年を構築することを第一目標とした。この編年を構築すれば、墓葬の年代決定の重要な基準資料を得ることもでき、ひいては中国古代墓葬の変遷とその意義の探究にまで研究の射程が広がる。

この視点から本論では、まず鎮墓像資料の全体を考慮しながら、その全体を再分類・再定義した。鎮墓像の差として顕著である体軀姿勢を中心に、その他の諸特徴を加味して、まず中国古代鎮墓像を「鎮墓神」、「鎮墓獸」、「鎮墓俑」の3つに大別する。そして鎮墓神は2類（Ⅰ類「方柱状の身部」・Ⅱ類「円柱状の身部」）、鎮墓獸は3類（Ⅰ類「四足歩行型」・Ⅱ類「蹲踞型」・Ⅲ類「伏臥型」）、鎮墓俑は3類（Ⅰ類「人獸型」・Ⅱ類「人型」・Ⅲ類「神將型」）にそれぞれ細分し、計3大別8類とした。

次に、各類の鎮墓像を地域差や時期差を考慮に入れて、編年を完成させた。その上で、個々に組み上げた編年を総合し、中国古代鎮墓像の変遷過程と画期、さらに分布の傾向を見出した。

その結果、鎮墓像の変遷を、「獸」と「人」の要素の消長を基準に3時期に区分した。分布域は南方地区、北方地区と境界地区の大きく3つの地区である。各地区は、楚文化圏（Ⅰ区）、漢文化圏（Ⅱ区）、胡漢一体文化圏（Ⅲ区）に対応する。分布圏内の鎮墓像を「楚系」・「漢系」・「胡漢系」鎮墓像として、変遷と分布を対応させて検討すると、各系統の鎮墓像の出現・消長が、王朝の交替、民族の移動、対外交流と密接に結びついていたことが明らかになった。